



足尾銅山を世界遺産へ

世界遺産国内暫定一覧表への追加記載を目指して

9月号では、産業遺産の文化財指定に向けて行った現地調査と、世界遺産登録推進検討委員会の開催結果をお知らせしました。今回は、昨年11月7日に足尾公民館で開催したシンポジウムと、平成22年度の世界遺産登録推進事業の概要についてお知らせします。

世界遺産登録推進シンポジウム

◇産業遺産見学会

見学会 古河掛水倶楽部(国登録有形文化財)・旧古河鋳業会社足尾銅山掛水重役住宅所長宅(県指定文化財)

午前中に行われた産業遺産見学会には市内外から46名が参加し、「古河掛水倶楽部」と「旧古河鋳業会社足尾銅山掛水重役住宅6棟」のうち、床面積が100坪を超える所長宅を見学しました。所長宅を含む5棟の重役住宅については一般公開されていませんが、所有者の古河機械金属㈱の協力で、特別に公開されました。

参加した方からは、「所長宅の予想以上の大きさや洋風応接間の豪華さに驚きました。足尾という夏目漱石の「坑夫」の世界の印象しかありませんでしたが、今日は、足尾の知られざる華やかな時代を感じるこ



産業遺産見学会の様子。

とができて良かったです」といった感想をいただきました。

◇基調講演

講師 河東義之氏(小山工業高等専門学校名誉教授・市検討委員会委員長)

演題 足尾銅山の世界遺産登録の現状と構成資産の文化財指定

講演の内容

世界遺産に登録されるためには、

まずは別子銅山を多くの市民に知ってもらうため、勉強会などを行っている。地域資源を生かしたまちづくりは、より多くの人にその良さを知ってもらえるよう底辺を広げることが大切だという信念のもと、活動している。

幸崎雅弥氏(古河機械金属㈱執行役員環境保安管理部長)

足尾地域では、多くの人が産業遺産を活用したまちづくりを積極的に推進している。会社の判断や法的な拘束力もあるが、まちづくり、地域づくりに最大限協力していきたい。

山田功氏(足尾銅山発見400年記念事業実行委員会委員長)

足尾の荒廃した山々を復旧する事業に携わってきた。治山事業では多くの女性たちが活躍した歴史があり、緑が戻りつつある。そういった足尾のさまざまな姿を、次の世代に伝えていくことも、まちづくりには大切なことだと考えている。

河東義之氏

文化遺産は保存・活用だけではなく継承、つまり次の世代に伝えていくことが大切である。そうすることにより、そこに新しい文化が生まれる。世界遺産「日光の社寺」も文化

まず国の文化財指定が進んでいなければならぬ。現在、通洞坑と宇都野火薬庫跡が国の史跡指定を受けているが、これだけでは足尾銅山を構成する資産の一部にすぎず、足尾を語ることはできない。個別に遺産を指定するのはなく、構成群で遺産を指定することが、足尾銅山の全体像を示す上で重要である。

◇パネルディスカッション

基調講演に続いて河東義之氏をコーディネーターに、パネルディスカッションを行いました。テーマ 地域資源を活かしたまちづくり

北川紘一郎氏(桐生世界遺産の会長)

桐生市には多くの織物関連遺産が残り、これらを景観として保存する取り組みが始まった。また、富岡製糸場の世界遺産登録に向けた取り組みの中で、桐生も構成遺産の一つとして可能性があり、市民活動も活発になっていく。このような運動を通して、地域を盛り上げたい。

石川勉氏(新居浜市観光ガイドの会長)

愛媛県新居浜市には、別子銅山がある。世界遺産にという話もあり、



シンポジウムの様子。

平成22年度世界遺産登録推進事業の概要

市では、平成23年度末を目標に世界遺産登録への再提案を目指していましたが、国は、当面の再提案は受け付けられないとの考えを示しています。このことから再提案は非常に厳しいものと認識しています。しかし、国からは「暫定リスト入りを目指す文化遺産については、示された課題解決の取り組みを行い、自治体が主体となつて将来的なまちづくりを着実に進め、拙速な取り組みは避けては

しい」との説明も受けています。また、最近国では、産業遺産の世界遺産登録を促進するため、その保存・活用に必要な施策の保護や管理に関する新たな基準づくりをする動きも出てきています。これは、足尾銅山の産業遺産の保存・活用を促進する上で期待されるものであり、今後の動きに注目しています。

このような状況の中、平成22年度は、文化財指定にあたり必要となる産業遺産の測量の実施や、情報発信として足尾銅山跡調査報告書の発行、前述のシンポジウム、産業遺産見学会などを実施しました。また、宇都宮大学やお茶の水女子大学との共同研究や資料調査なども継続して行い、国から課題として示された産業遺産の文化財指定と足尾銅山の世界史的な観点からの価値の証明にも取り組んでいきます。

市では平成23年度も、文化財指定や産業遺産の保存・活用を積極的に図るなど、足尾銅山の世界遺産登録事業をさらに推進していきます。

くわしくは
生涯学習課 世界遺産登録推進室

※専用ホームページ「足尾銅山の世界遺産登録をめざして」
(http://mike-oashio.jp/)